



上越市立稲田小学校

稲田小だより

令和 6 年度 No. 4

令和 6 年 7 月号

◎まもなく 1 学期終了

校長 遠藤 和英

あと数日で、令和6年度の1学期が終了します。おかげさまで、予定していた活動を順調に行うことができました。子どもたちの健康管理にご配慮いただいた保護者の皆様と、毎日温かく子どもたちを見守ってくださった地域の皆様のおかげです。運動会、授業参観、学年PTCなど、多くの皆様からおいでいただき、学校の様子を見ていただくことができました。皆様の眼には子どもたちの様子はどのように映ったでしょうか。登下校や授業中、あるいは行事等の活動を通して、子どもたちの成長を感じていただけたでしょうか。教育目標の「ひとの役に立てる子」の実現に、少しは近づいたように感じていただけたでしょうか？

実は、あいさつを例にしても、保護者の皆様からの学校評価や町内会長さんや学校運営協議会さんとの懇談会でも、まだまだ満足の域に達していないというご意見があるのは十分承知しています。また、友達間のトラブルや、地域の中での遊び方がよくないという連絡をいただくことも事実です。人間ですから、なかなかすべてが素晴らしいという訳にはいきません。それでも、校内での子どもたちの様子を見ると、4月の頃より、明るく表情豊かにあいさつできる子どもが多くなってきたと感じています。また、授業中の態度も向上しています。子どもたちは、この1学期で、確実に成長してくれたと感じています。今後も、教育目標の実現のために職員で同じ方向を向いて力を尽くしていきますので、どうか温かく見守っていただきたいと思います。

それにしても、大変多くの皆様から活動を支えていただいた1学期でした。運動会、登下校、各学年の活動に至るまで、本当に多くの保護者や地域の皆様に支えていただきました。活動をスムーズに進めることができたことはもちろん、職員の負担を少し軽減することができました。改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。

さて、まもなく夏休みを迎えます。子どもたちには、夏休みは自分で自分を鍛える・成長させる期間であること、そのために何か一つでいいから自分のために続けることを決めること、そして決めたことを夏休みの間続けること、それができると必ず自分に自信を持てるようになることを伝えようと思います。何を続けようか、すぐには目標をもてない子どももいると思います。ぜひ、相談に乗ってやってください。「ぼくは〇〇を続けたよ」「私は〇〇を頑張った」と、自分に自信をもって2学期に登校する子どもたちの姿を期待しています。

また、いつもお願いしているように、安全・健康についてご家庭でも十分にご指導ください。併せてSNSやゲームなどメディアとの付き合い方を注意深く見守っていただきたいと思います。特にSNSについては、子どもたち任せにするには、小学生ではまだ早すぎます。将来、気持ちの良い使い方ができるよう、子どもたちの利用状況を必ず把握してください。事故がなく、そして充実した夏休みになることを願っています。

1学期間、本当にありがとうございました。

稲田小学校ABCD

A:あたり前のことを

B:ばかにしないで

C:ちゃんとできる人が

D:できる人(すごい人)

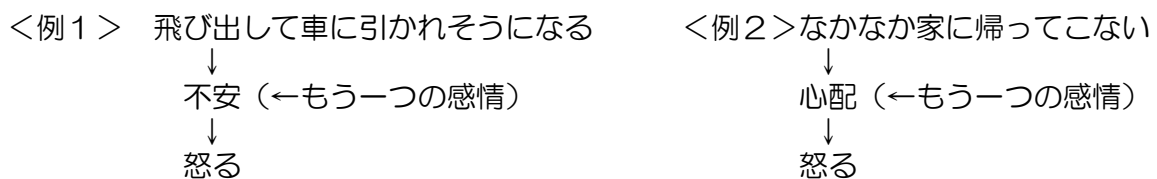
◎どうやって叱ったら

前回の学校だよりで「褒め方」に触れた文章を書いたところ、褒めるのはいいけど、叱る方が難しいというお話をいただきました。あたり前ですが、子どもたちは現在成長中です。ですから普段過ごしている中で、間違ってしまうこともたくさんあります。そのとき私たち大人は、見逃さないで適切に叱ることが必要です。この適切に叱るということは、私もとっても難しいと感じています。そこで、以前叱り方について考えたことを紹介します。

それまで、私が心掛けていたことといえば、「理由が相手に伝わるように叱る」「傷つけ過ぎない言葉を選ぶ」「行為を叱っても人格を否定しない」「一呼吸置いて、冷静に叱る」「ぐじぐじと長い時間叱らない」…など、一般的なことです。しかし、いざその場面に出会うと、上手に叱るのは難しいと感じることが多かったです。うまい叱り方ができないときは、叱ったあと、なんともいえず後味が悪いのです。特に自分の息子を叱るときは、なかなか冷静になることができず、怒りにまかせて叱ってしまうこともたくさんありました。

そんなとき、あるカウンセラーが書いた文章に出会いました。そこには、叱るというのは、本来「反省を促す」ことが目的である。だから、子どもが反省をしてくれるのなら、叱る必要はない。つまり、上手に叱る方法は、正確に言うと叱らないで子どもが自ら反省するように促すことだ、と書かれていました。

では、どうやったら子どもに反省を促すことができるのでしょうか。その方法を知る前に、意識しておかなければならないことがあるのだそうです。私たち大人が叱るときは、だいたいは怒ってイライラ、ムカムカしています。しかし、「怒る」の感情の裏には、「もう一つの感情」が必ず存在します。この「もう一つの感情」は、ほとんどの場合「不安・悔しさ・寂しさ・悲しさ・期待はずれ」。



この「もう一つの感情」が原因で、次に怒りが発生します。つまり、この「不安・悔しさ・寂しさ・悲しさ・期待はずれ」が本当の感情で、「怒り」は二次的な感情です。ですから、子どもに反省を促すためには、「怒り」をぶつけるのではなく、この「もう一つの感情」を伝えるのだそうです。

＜例１＞の場合なら、「もう驚かせないでくれよ。〇〇がもし車にひかれたら、父さんは悲しいし、寂しいよ。もうこれからは飛び出さないでくれよ。」、＜例２＞の場合なら、「どこへ行っていったの？ 母さんはとっても心配したんだから。辛かったんだからね。」という感じで、「驚いた」「悲しい」という想いを子どもに伝えるのだそうです。このように心で感じたこと（怒り以外）を正直に感情を込めて伝えると、怒りをぶつけながら叱るより、よほど効果があると書かれていました。

この文章を読んで、なるほどそういう考え方もあるのだなと感じました。それからは、怒りを前面に出して叱っていた自分を反省し、「どうして自分は今こんなに怒っているのだろう」と怒りの後ろにある感情に少しずつ目を向けられるようになってきました。そして、「今日は比較的冷静に息子を叱ることができたな」という日も出てくるようになりました。また、叱る回数も、以前よりは少なくなっていくような気がします。保護者の皆様はいかがでしょう？

とはいうものの、私自身まだまだ感情に任せて自分の怒りの感情をぶつけてしまうこともたくさんあります。上手に褒めること同様、上手に叱ることも難しいです。これからもどうやったら上手に褒めたり叱ったりできるか、一緒に考えていきましょう。